

道路改良の經濟的效果に就て (一〇)

守屋 秋太郎

目次

序論		
一、(兵庫縣)	二號國道	自大阪府界(阪神國道)至神戸市
二、(滋賀縣)	同	甲賀郡山内村地内(鈴鹿峠)
三、(岐阜縣)	八號國道	自岐阜市(岐阜國道)至大垣市
四、(山梨縣)	同	自南都留郡船津村至東八代郡金生村
五、(群馬縣)	九號國道	自高崎市(以上昭和十一年九月號)至前橋市
六、(京都府)	府縣道	久多京都線
七、(兵庫縣)	府縣道	伊丹尼ヶ崎港線
八、(埼玉縣)	府縣道	忍松山線
九、(千葉縣)	府縣道	吉田大和田線
一〇、(青森縣)	府縣道	弘前鱒ヶ澤線
一一、(福井縣)	府縣道	米ノ浦武生線
一二、(島根縣)	府縣道	今市杵築線
一三、(岡山縣)	府縣道	岡山西大寺線
一四、(德島縣)	府縣道	立江日和佐線
一五、(高知縣)	府縣道	宿毛宇和島線
一六、(熊本縣)	府縣道	宇土綱津線
		(以上昭和十一年十月號)
一七、(同)	二號國道	自龍託郡川尻町至八代郡太田郷村
一八、(同)	府縣道	人吉日奈久線
一九、(同)	府縣道	隈生出水町線
二〇、(同)	府縣道	木山植木線
二一、(同)	府縣道	河内植木線
二二、(宮崎縣)	三號國道	自宮崎市橋通五丁目至同市中村町二丁目
二三、(同)	同	自東臼杵郡美々津町大字高松字上町至兒湯郡岩脇村大字幸脇字幸本

(以上昭和十二年十一月號)

二四、(宮崎縣) 同 自東諸縣郡高田町 大字浦之名字山下

二五、(同) 府縣道 宮崎熊本線

(以上昭和十一年十二月號)

二六、(同) 府縣道 相葉細島港線

二七、(和歌山縣) 府縣道 父鬼名手線(未記載)

二八、(同) 府縣道 瀧神南郡線(以上一月號)

二九、(同) 府縣道 川上御坊線

三〇、(大阪府) 二號國道 自大阪府旭區内代町 至大阪府北河内郡樟葉村(京郡府界)

三一、(同) 同 自大阪市此花區上瀨島中五丁目 至同市西淀川區佃島町(兵庫縣界)

三二、(同) 府縣道 大阪池田線

三三、(同) 府縣道 大阪枚岡線(以上三月號)

三四、(同) 府縣道 大阪奈良線

三五、(同) 府縣道 天王寺堺線

三六、(茨城縣) 府縣道 水戸磯城線

三七、(同) 府縣道 船戸潮來線

三八、(山形縣) 五號國道 自山形縣東置賜郡中川村 至同縣同郡赤湯町

三九、(同) 同 自山形縣山形市十日町(以上四月號) 至同縣同市上小町

四〇、(同) 府縣道 米澤若松線

四一、(同) 府縣道 新庄鶴岡線

四二、(同) 府縣道 鶴岡白岩線(以上五月號)

四三、(栃木縣) 四號國道 自栃木縣宇都宮市池上町 至同縣同市西原町

四四、(同) 同 栃木縣河内郡古里村 大字岡本地内(鬼怒川橋)

四五、(同) 府縣道 宇都宮鹿沼線

四六、(同) 府縣道 大田原下館線

四七、(同) 府縣道 葛生宇都宮線

四八、(靜岡縣) 一號國道 自靜岡縣田方郡三島町(箱根坂路) 至同縣同郡錦田村

四九、(同) 同 自靜岡縣富士郡岩松村 松岡 至同縣鹿原郡富士川町 岩空

五〇、(同) 同 自靜岡縣清水市辻町(清靜國道) 至靜岡縣靜岡市榮町

五一、(同) 同 自靜岡縣志太郡島田町(大井川橋) 至同縣榛原郡金谷町

五二、(同) 同 自靜岡縣磐田郡井通村(天龍川橋) 至同縣濱名郡中町村

五三、(同) 同 自靜岡縣濱名郡新居町 辨天島 至同縣同郡新居前驛

五四、(同) 府縣道 二俣水窪線

(以上本月號)

(五〇)

路線名 一號國道(清靜國道)

改良區間 自靜岡縣清水市辻町
至同 縣靜岡市榮町

延長 一一、〇九〇米

有效幅員 車道一四米五二
歩道 三米六四

路面構造 アスファルト鋪装
膠石 砂 利 道

工費 二、二六五、六〇〇圓

竣功年月 昭和十年三月

改良に因る效果

運賃低下に因る利益

一ヶ年 二〇六、〇七圓

算出の基礎

本路線は東海道に於ける重要幹線にして靜岡市と清水市とを連絡し、産業經濟交通上重大なる使命を有するものなるも、その改良前に於ては幅員狹少屈曲多く延長の

三分一の路面は靜岡電氣鐵道の軌道併用區間にして加ふるは省線東海道線との平面交叉箇所四箇所及び軌近産業、交通の著しき發展に伴ひ十全なる機能を發揮し能はざるの状態に在りたるも、本改良工事に依り幅員を擴張し、屈曲の緩和を圖り線型を整備し、軌道併用區間を減少し且省線との平面交叉四箇所を除去するに及びて從來に於ける交通上の種々なる障礙は完全に除去され靜岡、清水間に於ける産業、交通は全く面目を一新するに至れり。

従つて改良後に於ては、距離の短縮、路面の改良により自動車運行時間の短縮及其れに伴ふ「ガソリン」消費量の節減或ひは運行の圓滑に依る車體の磨損減少等に因り、改良前に比較し一般物質の運送費は約三割の低減をみるに至つたのである。次に改良前と改良後に於ける輸送費の低減に就いてみるに次の如し。

清靜國道運賃低減調

	改良前			改良後			差引利益額		
	數量	一貫目當 運賃	金額	數量	一貫目當 運賃	金額	數量	一貫目當 運賃	金額
一日平均輸送量	一三・九七	〇・五〇	一六三・七五	一三・九七	〇・一〇	一三九・七	一三・九七	〇・〇五	五六四・六
一年總輸送量	四、三四・七五	〇・一五	六五二・一二・七五	四、三四・七五	〇・一〇	四三三・四七・五	四、三四・七五	〇・〇五	一、〇六〇・七〇

即ち右表に依つてみるに本改良前に在りては、物賃一示すが如く運賃低減に因る利益一ケ年二〇六、〇七一圓となれり。

貫目當輸送量一五錢を要したるも前述せる如き種々なる原因に依り一貫目當輸送量は三分一の低減をみ、一〇錢となれるに至れり。
 (一)沿道地價騰貴に因る利益 八、二二九、〇〇〇圓
 道路の新設又は改良等に依り沿線地價の騰貴、それに伴ひ賃賃料の騰貴等に關しては幾多の實例につき屢々論じたる所なるが、本路線の改築に於てもまた次表の如く著しく沿線地價の騰貴をみるに至れり。

本區間の貨物自動車交通量は一日平均四三〇臺にして内空、一四七臺盈二八三臺なるを以つて、一臺の積載量を約一噸半として此れが一ケ年につき計算するに前表に

清靜國道沿線地價騰貴額調

清水市

種別	改良前			改良後			騰貴額		
	面積	單價	總額	面積	單價	總額	面積	單價	總額
宅地	四、〇〇〇坪	六四	二五六、〇〇〇	六、〇〇〇坪	一〇〇	六〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇坪	三三〇	六六〇、〇〇〇

静岡市

計	宅	田	畑	〃	〃	計	宅	田	畑	〃	〃	計	宅	田	畑	〃	〃
1,050,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000	1,050,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000	1,050,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000
1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000
1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000
1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,050,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000

有度村及静岡市郊外

計	宅	田	畑	〃	〃	計	宅	田	畑	〃	〃	計	宅	田	畑	〃	〃
1,850,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000	1,850,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000	1,850,000	4,000	110,000	4,000	1,000	1,000
1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000
1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000
1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000	1,850,000	1,000,000	200,000	100,000	100,000	100,000

右表に於ける清水市についてみるに、宅地の最上なるものに於ては改良前坪當八〇圓のものが一躍して三〇〇圓となり、最低坪當一五圓のものの倍額の三〇圓となり、田畑に於ても夫々異状なる騰貴を示し、尙有度村及静岡

市郊外に於ても大體舊地價の二倍額の騰貴を示し、清水、有度に於ける、宅地の坪數増加は田畑の坪數の減少し宅地坪數の増加せるは此れ道路の改良に因る結果沿線に於ける産業交通の著しき發展性を示せるものであると謂ふ

ことが出来るのである。

(五二)

路線名 一號國道(大井川橋梁)

改良區間 自靜岡縣志太郡島田町
至同 縣榛原郡金谷町

延 長 二、七六五米四 橋 一、〇一九米一
取合道路 一、七四六米三

有效幅員 橋 七米二七
取合道路 一〇米

路面構造 梁 木塊鋪裝
取合道路 砂利道

工 費 一、七一五、三九八圓

竣功年月 昭和三年四月

改良に依る效果

交通費(渡船費)節減に因る利益

一ヶ年 一六六、一六六圓

算出の基礎

「一號國道」とか「二號國道」と謂つてしまつては、それが何處の邊にある道路であるか道路行政の専門家か或

ひは道路行政に關心と注意をもつものでない限り一寸判らないかも知れない。然し、「東海道五十三次」いや、彌次喜多の膝栗毛と謂へば小學校に通ふ子供だつて知つてゐる筈だ。夫れ程に「東海道五十三次」は往昔、京と江戸を繋ぐ主要なる道であつたのである。即ち一號國道、二號國道とは、宿場／＼に泊を重ねて京から江戸に、江戸から京に二十何日を要したる草枕の旅が、「サイレン」一つに東京驛を夜汽車で發てば一眠り、明くる朝は京都／＼と云ふ驛員の聲を聞くスピード交通の現代、東京と京都をつないでゐる道路の呼び方である、前述せる箱根坂路、富士川(橋梁)等も此の五十三次のうちにある。今述べやうとする大井川(橋梁)天龍川(橋梁)もくどくど述べるにはあまりにも有名である。「鎖國政治」の下に發達せざりしは何も、交通機關のみではなかつたのであるが、往昔の人にとつては「旅」は全く水盃であつた。「箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川」とはあまりにも有名である程、一朝降雨にあつて増水された

大井川の激流は水人足の肩が唯一の渡川機關であつただけに諸大名の威力をもつてしても如何ともすることは出来なかつたのである。近松徳叟つくるところの「朝顔日記」のみ雪が愛人阿蘇次郎（實は熊澤蕃山）の後を慕つて川止の大井川で純情悲戀の涙をしぼつても、渡ることは不可能であつた。

此の往昔の難コースが文化發展の昭和聖代に至つて、近代的橋梁の架設をみるに至つたのである。従來渡船を唯一の機關としただけに、増水又は暴風雨の場合は屢々交通杜絶の止むなき状態となつたり、且深夜及重量貨物の渡船等不可能なりし爲、東海道に於ける重要幹線たるにも不拘産業交通上に及ぼす支障、その損失は實に大なるものであつた。

然るに近代的橋梁の架設さるゝや前述せる弊害は全く一掃されて自動車交通と重量貨物の輸送可能となり、經濟的活動は全面的に面目を一新するに至つたのである。

斯くて渡船に要したる交通費の節減に就いてみるに次

の如し。

大井川渡船賃調

種別	數量	渡船賃	渡船賃總額
歩行者	五七九	〇五	二八・九五
牛馬	三	〇八	二四
自轉車	一、五五八	〇二	三一・一六
荷車	七五	〇二	一・五〇
牛馬車	四〇	一〇	四・〇〇
自動自轉車	四八	〇五	二・四〇
自動車	一四一	一・〇〇	一四一・〇〇
貨物自動車(空)	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇
計	七二	三・〇〇	二一六・〇〇
			四五五・二五

即ち以上は昭和八年十月交通調査に依る一日の平均交通量にして、その渡船賃は賃取經營當付の單價に依れるものにして、此の渡船賃節減に依る利益一ヶ年一六六、一六六圓となれり。

地價騰貴に因る利益 二四七、八八〇圓

本橋梁の架設に依り經濟産業交通上の效果増大さるゝと共に沿線島田町、金谷町部落に於ける地面は次の如く

著しき騰貴をみるに至れり。

種別	改良前			改良後			差引騰貴額		
	面積	單價	總額	面積	單價	總額	面積	單價	總額
宅地	二,000坪	五・〇〇	一〇,〇〇〇	七,100坪	三〇・〇〇	二一三,〇〇〇	五,100坪	五・〇〇	二五,〇〇〇
畑	一,000	五・〇〇	五,〇〇〇	一〇,000	五・〇〇	五〇,〇〇〇	△三,000	一・〇〇	三,〇〇〇
小計	三,000	三・〇〇	一四,〇〇〇	一七,100	六・〇〇	一〇三,〇〇〇	△三,100	二・七〇	六,七〇〇
宅地	五〇〇	一〇・〇〇	五,〇〇〇	二,500	一〇・〇〇	二五,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇・〇〇	二〇,〇〇〇
小計	一,500	三・〇〇	四,500	一四,〇〇〇	四・〇〇	五六,〇〇〇	△二,500	一・〇〇	二,500
計	三,500	三・〇〇	一〇,500	三〇,600	四・〇〇	一二四,100	四,600	二・七〇	一四,700

右表に於て梁田町及金谷町の宅地が改良前に比較して著しく増加せるは橋梁の架設に因つて、田畑が宅地となりたるものにして、斯如く橋梁の架設が交通の利便と相伴つて、地方産業の發展に直接重大なる影響を與へたる結果であることを證左したるものである。

其の他金額に算出し得ざる利益

- 一、交通杜絶の絶無
- 一、物資輸送の迅速化
- 一、重量貨物の輸送可能
- 一、所要交通時間の短縮

(五二)

路線名 一號國道(天龍川橋)

改良區間 自静岡縣磐田郡井通村
至同縣濱名郡中ノ町村

延長 三、七四四米四七橋 梁 九一九米四七
取合道路二、八二五米

有效幅員 橋 梁 七米二七
取合道路 一〇米

路面構造 橋 梁 アスファルトブロック鋪裝
取合道路 砂利道

工費 一、二六三、六六五圓

竣功年月 昭和八年六月

改良に因る效果

交通費(渡橋賃)節減に因る利益

一ケ年 八〇、二二二圓

算出の基礎

前述の河川に比すれば天龍川は渡船に依らず木造の假橋梁が架設されてゐたのであるから、荷重制限があり賃取橋梁であるとは云へ前述の河川より比較的交通安全の利便が宜かつたのである。

然し乍夫れとて、木造の假橋梁であるため、重量貨物

の運輸には制限があつて約三百貫以上のものは通行不能であり、且増水時には屢々流失の危れあり、交通上の支障は最近に至るまで除去されるに至らなかつたのである。

然るに昭和八年やうやく一、二六三、六六五圓の巨費を投じて近代の橋梁を架設するに至つて、夫等交通上の種々なる弊害と支障は除去され茲に初めて、自動車交通は勿論のこと重量貨物の輸送も可能をみるに至り、經濟、産業、交通上に及ぼす效果は著大なるものがある。

今賃取橋梁時代に要したる渡橋費に就いてみるに次の如く此等の交通費を節減することが出来ることとなつたのである。

天龍川渡橋賃調

種別	數量	渡橋賃	渡橋賃總額
歩行者	五一八	〇二 ^甲	一〇・三六 ^甲
牛馬	一	〇四	〇四
自轉車	一九二〇	〇四	七六・八〇

宅地	四、三〇〇	一三、〇〇〇	五九、八〇〇	四、六〇〇	一〇、〇〇〇	六三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、一〇〇
田	二、〇〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
畑	三、〇〇〇	二、五〇〇	七、五〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	二、〇〇〇	七、五〇〇
計	九、三〇〇	六、五〇〇	七三、三〇〇	九、六〇〇	一五、〇〇〇	八五、〇〇〇	六、〇〇〇	一三、六〇〇
合計	三三、三〇〇	二六、一〇〇	一三六、一〇〇	七三、六〇〇	七六、〇〇〇	一七六、〇〇〇	四三、〇〇〇	和田村

右表についてみるに、井通村に於ては、本橋梁架設前に在りては、宅地面積五〇〇坪なりしが本橋梁の架設後六倍の三、〇〇〇坪となり單價も一〇圓より一五圓に騰貴をみるに至れり。即ち此の宅地面積の増加は從來の田地が宅地となつたものである。

中ノ町村に於ても架橋前に在りては宅地面積は三、五〇〇坪なりしが架橋と共に倍加して八、〇〇〇坪となれるは井通村と同じく田地一二、〇〇〇坪のうち三、〇〇〇坪、畑一〇、〇〇〇坪のうち一、五〇〇坪が夫々宅地になつた結果であつて、坪當り單價も宅地二〇圓が四〇圓となり、田、三圓が八圓に、畑三圓五〇錢が一〇圓に夫々躍騰を示してゐる。

和田村に於ては、宅地の増加したるものなきも、坪當り單價は宅地、田、畑等何れも著しき騰貴をみるに至れり。

以上三ヶ村に於ける夫々の地價騰貴の原因は何れも本橋梁架設の結果に因るものであつて、その經濟的效果が如何に重大なる結果を齎らせるかを物語るのである。

其他金額に算出し得ざる利益

- 一、物資輸送の迅速
- 一、重量物貨の輸送可能
- 一、交通事故の防止
- 一、交通杜絶の絶無
- 一、交通所要時間の短縮